

〈メディカル最前線〉

ひろしま医療情報ネットワーク

(Hiroshima Medical Network=HMネット)

あなたの診療情報を、かかりつけの先生にも見てもらえます。

広島県と広島県医師会が進めている「ひろしま医療情報ネットワーク(Hiroshima Medical Network=HMネット)」。これを利用すると、参加病院で受けた診療のようすをかかりつけの先生も見ることができ、普段の診察がよりスムーズになります。広島共立病院では、3月から参加しています。

薬の重複が防げ、飲めない薬やアレルギー情報なども共有されるため、医療の安全性もより高くなります。



※情報開示カード

「情報開示カード」の作り方

- ①当院で「情報開示カード」の発行を申請します。
- ②同意書と引き替えに「情報開示カード」が発行されます。
- ③かかりつけの医師にカードを提示します。

患者さんの診療情報を病医院や薬局で共有

HMネットとは、このネットワークに参加した病医院や薬局で同意していただいた患者さんの診療情報を共有し、患者さんの身体的・精神的・経済的負担を減らして、安心して安全な医療を受けられるようにするネットワークのことです。現在HMネットには309の病医院や医療施設が参加しています(2014年1月現在)。

「情報開示カード」で かかりつけの先生もスムーズに診察

HMネットは「情報開示カード」と「HMカード」の2種類を使用します。「情報開示カード」は、当院であなたが受けた診察や検査の情報を、近くのかかりつけの医師が見られるシステムです。つまり、1枚のカードであなたの診療情報を共有するものです。情報を共有することで、検査や投

担当者に聞く

医療情報部 部長
清水 英俊さん



▲HMネットのマスコットキャラクター「ぼぼじろう」

Q: HMネットのメリットは?

HMネットによりすべての検査・治療情報が参加医療施設間で見られるようになります。患者さんも安心して病医院にかかれます。

Q: カードの発行は有料ですか?

患者さんの費用負担はありません。

Q: 個人情報が漏れることはありませんか?

患者さんが許可する病医院以外では、診療情報を参照することはできませんし、またセキュリティも万全を期しています。

新病院レポート

ブルーシートの中では…

青いシートで覆われた新しい広島共立病院は、躯体工事が6階最上階まで出来上がっています。今回のレポートは内装工事に注目してみます。

中に入ると病院の端から端まで一直線に伸びた長さ100mの通路が印象的です。その両サイドに区分けされた各部屋は、病室や各科など区分けが明確になってきています。右の写真は3階病室の壁枠骨組み写真です。どんどん部屋が区切られ、部屋の大きさがわかります。

工事内容は、部屋区切りの骨組み作成・壁面ボード貼り・扉枠組み設置・空調設備取付け・コンセント工事などが急ピッチで進められています。

